

2022年8月22日

スズキ、インド・グジャラート工場で累計生産 200 万台を達成



スズキ株式会社のインドにおける四輪生産子会社スズキ・モーター・グジャラート社（以下、SMG）は、8月20日に累計生産200万台を達成しました。

SMGは2017年2月に生産を開始し、5年6ヵ月で累計200万台を達成しました。これは、スズキの生産拠点としては最速となります。今回200万台目に生産された車両は「バレーノ南アフリカ仕様」でした。

SMGは、インド市場向けモデルの生産だけでなく、スズキのグローバル生産拠点として輸出モデルも生産しています。これらのモデルは中南米やアフリカなどに輸出されています。また、2025年には電気自動車（BEV）、2026年にはBEV用車載電池の生産を開始する計画です。

スズキの鈴木社長は、「創業以来のスズキのモノづくりの根幹を表す『小・少・軽・短・美』をインドでも実践し、これからも環境に配慮した小型車をお客様に提供してまいります。」と述べています。

今後もスズキは、経済成長を続けるインドにおいて、モビリティの多様な選択肢を提供し続け、インド自動車市場の成長にあわせ生産能力を増強してまいります。

●スズキ・モーター・グジャラート社の概要

社名	Suzuki Motor Gujarat Private Limited (スズキ 100%出資)
工場所在地	グジャラート州ハンサルプール
従業員数	約3,200名(2022年3月末)
生産能力	年間75万台
生産実績(2021年度)	約54万台、(参考)SMG+マルチスズキ計 約166万台
稼働時期	A工場 2017年2月、B工場 2019年1月、C工場 2021年4月 輸出向けモデル生産開始 2018年3月
現在の生産モデル	A工場 バレーノ、OEMモデル B工場 スイフト、ディザイア C工場 ディザイア、バレーノ